

被災地に希望をひろげよう

# 青年ボランティア ニュース

第4号 2011/5/1

民青同盟・青年ボラ

ンティアセンター

TEL0191-31-8036

## 全国に広がる青年ボランティアの輪

いま全国からボランティアが続々あつまっています。ピークの4日には100人をこえる規模になる予定です。どんな思いで来たのか、2人の方に話を聞きました。

### ブログで知って翌日には被災地へ

信州大学3年のN君

たまたま見つけたブログの連絡先に電話して、翌日にはボランティアセンターに着きました。はじめは、地震のニュースに衝撃をうけ、ボランティアの報道をみて「いつか自分も」と思っていました。28日、連休中にボランティアがふえるとの報道をみて、「いま行かなければ一生後悔する」と探しました。

長野の民青同盟のブログを見つけ、トントン拍子で話がまとまりました。29日夕方には岩手にいました。勇気をもって決断することで、たった一日でもいろんな経験ができる。やってみないと何も動かない。動いてみて、人と人がこうやってつながっていくんだと実感できました。これからの人生や生き方の糧になるんじゃないかと、強く思います。

### 言葉にできないほどの衝撃

テレビの映像はあまりに現実離れしていて実感もてなかったのですが、いざ被災地をみて、すごく衝撃をうけました。「海からはるか先のここまで津波がきたのか、ここに住んでいた人たちは逃げられたのか」と。想像するだけでいろんな人たちの思いが伝わってきて、胸が痛みました。

漁港での片付け作業は、ささやかなもので、はじめは無力さを感じました。ただ、一緒に作業したおじいさんが、素性を知らない僕らにもやさしく、明るく接して心をひらいてくれたことが、心にしみました。どんな小さな作業でも、被災者にとって助けになります。目の前の作業をやっていくことで、元気になり、希望をもてるようになればと思います。

### みんなで作る活動を実感

高知の岡田はるかさん

私は、4月27日に来て5日間いました。高知は遠いので、仲間と話していると「ほんとは何かしたいけど、あまり出来ることないね」という声もありました。現地に行って何かをもって帰るのも大事な、と思ってきました。

私がいたのは人があふれる前で、かなり自由にできました。ボランティアをしながら次の作業依頼を見つけていくというのを知って、ビックリしました。一人ひとりの被災者とのつながりや対話がとても大事なんだな、自分たち一人ひとりがつくり上げていく活動なんだ、と。こんどは高知の仲間たちと、長いスパンでの復興を考えていきたい。自分たちに何が出来るのか、もっと広く考えていきたいと思いました。

### 「若い人たちがきて元気でた」



30日も前日につづき黒崎漁港の片付けへ。「震災後はじめて海岸におりた」という年配の女性と対話になりました。「地震

後、聞いたこともない音が鳴り響き、海が怖くて行きたくなかった。でも、若い人たちが来ているからと聞いてきてみた。こんなに一生懸命やってくれているのを見て、頑張らないとなと思った。若い人たちが来てくれるだけで元気が出る」と、涙ながらに話してくれました。